

平成30年4月27日(金)

老球の細道408号

チームの選択はコーチの選択

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ミニバスに加入しようとする子どもの保護者によく質問されることがある。どのチームに加入したら良いか、何を基準にチームを選んだら良いか。地元のチームは強いのだが、練習を見学に行ったら、ミニバスなのにボールを使わないで走る練習ばかりやっている。

私はこのような質問があった時に迷わずに答える。チームを選ぶときは、そのチームのコーチを見よ。ミニバス等育成年代の指導のポイントは「将来性」だと思う。勝敗を重視することで、ケガをさせたり、無理させたり、上手な子だけを特別扱いしたりしてしまうと、バスケットボールを嫌いにさせ、将来性をつぶしてしまう。将来性を考慮するコーチのもとで、バスケットボールを正しく、楽しく指導してもらうことが賢明な選択だろう。

コーチの資質を判断する一つの指標がある。色々な資質が要求されるのだろうが、私は日本バスケットボール協会公認コーチ講習会等において毎年伝えることはアメリカで推奨される5つの資質である。「コーチ (COACH)」の語呂合わせのキーワードでまとめられているので絶対忘れない。年度初め、コーチの原点にかえる意味でも再確認したい。

1・Comprehension (総合的理解力、総合的知識)：バスケットボールの指導に関係する総合的な知識を理解しているか、勉強しているか。主に、バスケットボールの知識、ルール、スポーツ医科学、人間を知る知識等である。『最強部活の作り方』(Number Books)に桜花学園の井上氏と福岡第一高校の井手口氏の話が掲載されている。両氏とも更なる高みを目指してアメリカのコーチのもとで研修を積んだことが財産になっていると述べている。コーチは勉強に余念がない。

2・Outlook (哲学、信念、人生観)：最近特に重要視されている資質である。コーチの生活は毎日が激動の日々。勝敗、周囲の批判、仕事と家庭の両立等で、周囲の影響にぶれないで的確な判断を下しながら生きていかなければならない。コーチがどのようなコーチング哲学を持っているかがコーチ選択のポイントである。最重要視することは何か、勝利か、技術の上達か、バスケットの楽しさか。もちろん楽しさの勝るものはない。

3・Affection (愛情、思いやり)：バスケットボールと選手を真に愛しているか。愛とは相手を優先させる感情。思いやりとは、選手の健康、幸福、人生にまで気にかけてくれること。具体的にコーチの愛や思いやりが現われる場面は、選手に嫌われてもダメなことはダメと言えるか、コートにいる時間、選手といる時間をたくさん作っているか。

4・Character (人格、品性、品格)：コーチは選手にとって人生のモデル、ヒーローである。人格の未熟なコーチは安易な道ばかりを求める。望ましいキャラクターは3つある。①真摯な性格。真面目で一生懸命が基本中の基本②言動一致。信頼される基本③マイナス感情のコントロール (特に負けた時)。トラブルを起こさない基本である。

5・Humor (ユーモア)：日本人コーチの最も苦手とするところだろう。練習は苦痛にゆがんだ悲劇の主人公で行わないと達成感を感じられないのは旧石器コーチ。今やユーモアとジョーク、そして笑顔で偉大なることへ挑戦する時代である。ピンチの時こそ、逆境の時こそ007ジェームス・ボンドのように笑顔でジョークをかましながら乗り切るのが一流のコーチである。